

沖縄・玉城知事インタビュー

沖縄県の玉城デニー知事は20日、札幌市内で北海道新聞のインタビューに答え、正殿などが焼失した首里城（那覇市）の再建に向け、道内を含む国内外から寄付が寄せられていることに感謝を示した上で「復元してほしいという気持ちを、小さくても長く持ち続けてほしい」と呼び掛けた。

玉城知事は本土復帰50年となる2022年までに再建計画をまとめる考えを強調し「首里城は沖縄人の魂。復元したときに一緒に喜びを分かち合えるまで、道民は県民との絆を大事にしてほしい」と訴えた。

玉城知事は沖縄の基地問題を全国で語るトークキャラバンで、19日に来道。年明けに道内で予定される日米共同訓練で、米海兵隊の輸送機「オスプレイ」が航空自衛隊千歳基地で補給する可能性があることに関し「沖縄の重大な懸念が全国に広がるのが危惧される。基地問題を自分ごととして考えて」と語った。

カシノを中心とする統合型リゾート施設（IR）の道内誘致に関する鈴木直道知事の判断については「北海道全体に経済的な波及効果があるかは課題や懸念がある。鈴木知事は道民と対話し、納得のいく判断につなげてもらえれば」と述べた。（竹中達哉）

電子版に1問1答



「首里城は沖縄の歴史や伝統、文化の象徴。絶対に再建したい」と語る玉城知事＝20日、札幌市内（野沢俊介撮影）